



今月のトピック：【麦わら帽子】

麦わら帽子のブームが再熱しています。埼玉県春日部市の田中帽子店は明治13年創業。麦わらを編んだ真田紐を縫い上げた造形美に、蒸れずに涼しい実用性を備えた麦わら帽子を、大人用から子ども用まで300種類作っています。地面一面に麦わら帽子を並べて天日で湿気を飛ばす冬の寒干しは地元の風物詩。来年の夏の酷暑に備えています。



今月のネタ話：【「思い出してもらおう」を詰めた福袋が大ヒット】

この夏、すき家の「SUMMER BAG 2026」が発売翌日に全店完売して話題になりました。価格は税込み3000円。中身は3000円分のクーポンと、カゴバッグやステンレスボトルなどのオリジナルグッズです。クーポンだけで元が取れるのでグッズは実質無料。消費者には分かりやすいお得感で、即完売も納得です。もちろん、すき家にとってもこの福袋はよくできています。クーポンで再来店を促すのは飲食店ではおなじみの方法ですが、この福袋の面白さはその先にあります。カゴバッグやボトルは、店の中ではなく外で使うもの。夏の外出先や日常の中でも、グッズを見るたびにふと「すき家」が目に入り、牛丼を食べていない時間にも「すき家」を思い出してもらえろというわけです。福袋を正月だけのものと決めつけず夏の来店動機に結び付け、さらに店外での接点までつくる。この企画がただのお得な福袋で終わらなかったのは、主力商品の「牛丼」ではなく「すき家を思い出す理由」を袋に詰めたからかもしれません。



で元が取れるのでグッズは実質無料。消費者には分かりやすいお得感で、即完売も納得です。もちろん、すき家にとってもこの福袋はよくできています。クーポンで再来店を促すのは飲食店ではおなじみの方法ですが、この福袋の面白さはその先にあります。カゴバッグやボトルは、店の中ではなく外で使うもの。夏の外出先や日常の中でも、グッズを見るたびにふと「すき家」が目に入り、牛丼を食べていない時間にも「すき家」を思い出してもらえろというわけです。福袋を正月だけのものと決めつけず夏の来店動機に結び付け、さらに店外での接点までつくる。この企画がただのお得な福袋で終わらなかったのは、主力商品の「牛丼」ではなく「すき家を思い出す理由」を袋に詰めたからかもしれません。



来る11月5日は「いいりんごの日」。11（いい）りんご（5）の語呂合わせから、りんごの生産量日本一を誇る青森県が制定しました。ちなみに約半月後の22日は「長野県りんごの日」だそうで、生産量国内第2位である長野県のJA全農長野が制定。こちらは主力品種の「ふじ」にちなんで、11（いい）22（ふじ）と読ませるのだとか。ところでりんごといえば、ヘルシーフルーツの代名詞。古くから「1日1個のりんごで医者いらず」といわれる通り、疲労の回復を早めるリンゴ酸、抗酸化作用で知られるポリフェノール、美肌効果が期待されるビタミンC、お通じを改善する食物繊維、血圧上昇を抑え、むくみを軽減するカリウム等々が含まれる「スーパーフード」なのです！いよいよ旬を迎えるりんご。同じ品種でも産地によって味が異なるという説もあり・・・それぞれの記念日にはヘルスケアに思いをはせつつ青森と長野のりんごを食べ比べてみるのも楽しいですね。



今月のキーワード：【unreasonable】

10月からカスタマーハラスメントと求職者等に対するセクハラ対策が事業主の義務となります。

“sexual harassment”は英語からそのまま流用された言葉ですが、“customer harassment”は和製英語です。そのような顧客を描写するのに使われるのは“unreasonable customer”「理不尽な客」や“difficult customer”「厄介な客」という言葉です。“unreasonable”の意味は「理性的でない・道理をわきまえない」で、“That is an unreasonable price!”は「それは法外な値だ！」という意味です。

レジ袋の持ち手を固く結びすぎてしまったときは、持ち手の輪の片側を指で細くねじって細長い形にして、その先を結び目の中へ押し戻します。すると、結び目がするりと緩んで簡単に開けることができます。袋を破損しにくく、再利用したいときにも便利です。

